

荒尾をより美しいまちにしよう！  
～主要道路の清掃作業～

6月2日（水）、市内の主要道路の清掃作業が行われました。

6月の「環境美化の月」の行事として行われ、地域住民や団体、市内事業所など約600人が参加しました。

近年は荒天で中止になることが多く、2年ぶりの開催となりました。

参加者は、日頃通る道路の路側を、安全に気遣いながら歩き、投棄されたゴミを丁寧に拾いました。

この日、燃えるゴミ230キログラム、燃えないゴミ160キログラムが回収されました。

▶ 1・2 道路を歩きながら、ゴミを拾う参加者の様子。多くの人の協力で、道路がきれいになった。



日頃の学習の成果を披露しました  
～第27回ふれあいエポック・荒尾まつり～

6月13日（日）、14日（日）働く女性の家（エポック・荒尾）で、「ふれあいエポック・荒尾まつり」が開催されました。

講座生による演技発表や作品展示が行われ、日々の成果を披露し観客を沸かせていました。また、茶会や料理バザーも行われ多くの来館者が訪れました。

14日には「千と千尋の神隠し」で有名になったライヤ（ハーブの古典楽器）のコンサートが行われ、癒しの音楽に観客も酔いしれました。

▶ 1 体験コーナーで手作りを楽しむこともできた。2 華やかな舞台。民謡や日舞、ダンスなどを多くの人々が楽しんだ。



夏に向けて健やかに 風物詩の神事  
～四山神社 茅の輪くぐり～

6月13日（日）四山神社で、夏に向かい疫病を防ぎ、無病息災を祈る神事「願立祭」と、今年半年間の罪穢れを祓い清める神事「茅の輪くぐり」が行われました。

訪れた人たちは、唱え言葉とともに境内に飾られた茅の輪を決められた順番でくぐったあと、社殿でお祓いをうけました。また、帰りにはお守りとして、小さな茅の輪を持ち帰りました。

▶ 神妙な面持ちで大きな茅の輪をくぐる参加者の様子。





PICK UP!  
ひとの  
ちから

## 『助丸流』の地域づくりで 大きな花を咲かせます！ ～助丸区花菖蒲愛好会会長 古嶋忠典さん～

6月5日（土）、助丸区の花菖蒲園で「第2回助丸区花菖蒲祭り」が開催されました。およそ3千株・25種類の色とりどりの花菖蒲が咲き誇りました。

この花菖蒲は、地域住民による「助丸区花菖蒲愛好会」の皆さんが、3年がかりで育てました。愛好会会長の古嶋忠典さん（左写真）は、会の発足について「休耕田対策と、高齢者の外出と交流を促すのが目的」と語りました。約2年前、花菖蒲の株分け先を探していた地域の人から株の提供を受け、休耕田対策に活かすことになりました。それから世話をする愛好会の会員を募り、現在では36人が活動しています。会員の平均年齢は70歳、最高齢は83



▲「花を間近で見てふれ合えるように」と、花菖蒲園に水が張られていないのが特徴。今年は近隣以外にも、北九州や長崎など、遠方から見学に訪れる人も多かった。来年の花菖蒲祭りも、6月の第一土曜に開催予定。

歳。会員自らパソコンを駆使してチラシやスタッフのネームプレートを手作りし、活動のアピールも行っていきます。また、花菖蒲の育て方もインターネットで情報収集。肥料を独自に配合したり株分けを3月に行うなど、『助丸流』の「やりやすい方法」を工夫し、楽しく活動しています。「大事なのは無理しないこと。言葉を交わしながら楽しくやること。つながりが大事」という古嶋さんの言葉の中に、『助丸流』の本質が見えます。地域の問題解決に無理なく楽しく取り組む様子に、現在では祭りの時などに、近くの店舗有志も協力してくれるようになり、地域内外の人が多く集います。

「難しかばってん、もう少し菖蒲園を広げたかね」と、夢を語る古嶋さん。会員の生きがいと地域のつながり、花を観に訪れる多くの人々の笑顔をまとめあげ、地域の宝・花菖蒲を、いっそう大きく咲かせていきます。

2030  
あまの有明  
優都戦略事業

## 世界でもっとも「憩える遺産」を目指して！

～2030 荒尾有明優都戦略

文化・スポーツ交流拡大プロジェクト部会 万田坑芝生植え～

PICK UP!  
まちの  
ちから



▲ 早朝まで降っていた雨で、作業しやすい土壌の状態。大人から子どもまで、てきぱきと手早く作業が進められた。

◀ 事前に掘られた穴に苗を入れ、苗の周りを固める。この芝生が根を張り、万田坑に訪れる人が癒される場所になることを想像すると、植える手にも力がこもる。

6月13日（日）、万田坑で芝生の植え付け作業が行われました。これは、2030荒尾有明優都戦略文化・スポーツ交流拡大プロジェクト部会の事業の一環で、世界遺産本登録を目指す万田坑を「市民の宝」として、誰もが憩える癒しの場にしようと計画されました。

当日は朝からおおよそ100人のボランティアなどが参加し、約3万7千個の芝生の苗を、万田坑前の広場に手際よく植えていきました。

万田坑の「つぎの夢」への歩みは、市民の皆さんの取り組みと協力できずには進められません。

